

省力化に効果的

ドローン

気仙沼 農薬散布を上演

気仙沼地方振興事務所による「ドローン」を使用した農薬散布デモンストラクションが15日、市内赤岩羽田地内で行われた。市内の営農組織や農業関係者ら30人以上が見学し、農薬散布の時間短縮や省力化に効果的であることを実感した。

知ってもらおうと、市内の営農組織を対象に初めて実施した。東北ドローンスクール気仙沼校を運営して

いる「マルタク」のスタッフが講師を務め、横1・5メートルほどの専用機の特徴を説明。タ

農薬を入れることができ、約10分のフライトで1畝に散布できることや、小回り、起伏への対応も容易なことでも中山間地域でも活用しやすいことなどを紹介した。

農薬の代わりに水を「想像以上に作業が速くて驚いた。費用などの課題はあるが、導入を検討したい」と話した。

ドローンによる農薬散布は、農家の高齢化や担い手不足などの課題への補てん策として注目されている。今回は、最先端の技術を



ドローンによる農薬散布を上演

同事務所では「ドローンは今後も一層の普及が見込まれ、農薬散布以外にも活用できる。中山間地の営農継続などに向け、農家の皆さんに知ってもらえて良かった」と話していた。